

令和6年度事業所防災リーダー優良企業に認定された4社に学ぶ

従業員や利用客を守るための 防災の取り組み

「事業所防災リーダー」はまさに防災の旗振り役。いざというときのための避難訓練や、「帰宅困難者」を作らないための準備や備蓄、また日頃から防災や減災のための情報収集を心がけて、事業所をできるだけ安全な避難場所にするための工夫を重ねている。その取り組みを1社ずつ紹介する。

防災リーダーが取り組む姿を見て高まった社員の関心

昨今の地震災害などで大きな課題になるのがインフラの復旧です。私たち積水工業は防災関連企業ではありませんが、インフラを支えている企業だという認識があります。だから万一の災害のときには、まず私たちの身の安全を確保して、できるだけ早く被災場所のトイレや水道の修理に向かえるようにしなければならない。そのために、本社を移転する際には備蓄品を保管するスペースを確保し、当社総務部の栢木早苗さんを事業所防災リーダーに登録して、防災への取り組みを強化しています。

防災リーダーはあらゆる被災状況を想定しつつ、社員とのコミュニケーションをとってくれる人が最適だと思います。栢木さんをリーダーに任命したのは大正解で、彼女が備蓄品の整理をしたり、避難用具の準備をしたりする姿を垣間見ることで、社員も防災



設備工事の会社としては珍しいフリーアドレス方式のオフィス。オープンなスペースのあちこちにヘルメットなどを入れた青い袋が点在している。

に関心を持ち、いろいろと意見をいってくれるようになりました。もちろん、社長の私もその一人です。栢木さんが「事業所防災リーダー通信」から得た情報を社内報などを通して社員に紹介してくれることは非常に有効で、今後はこうした情報やノウハウを生かして地域の防災拠点としても機能し、高齢者などの支援もできるように周囲との協力体制を整えていきたいと思っています。

東京都事業所防災リーダー優良企業

＜中小規模事業所部門＞

積水工業株式会社

積水工業株式会社は1965年創業以来、水と空気に関わる設備工事を手がける。東日本大震災で仙台支社が被災し、インフラ復旧の重要性を痛感。これを機に自社の防災対策を強化し、安全確保と迅速な復旧に努めている。

お話を聞きした
事業所防災
リーダー

代表取締役
金子信次郎 さん

フリーアドレスの良さを生かして 防災用品の設置を万全に

弊社の仙台支店が東日本大震災で被災し、その復旧支援に駆けつけた先で見た光景は今でも忘れられず、それが私の防災意識の高まりにつながっています。

災害時には一刻も早く安全に避難することが大切だと痛感したので、2022年にフリーアドレス方式を採用したのをきっかけに、社内のどこに座っていてもすぐにヘルメットをかぶり、防災用品の持ち出しができるように目立つところに配置しました。

また、フリーアドレス化の成功と防災対策の強化は、どちらも情報の共有化が鍵に。情報や物資の保管が属人化してしまうと、会社の大切な資源をいざという時に十分に生かすことができなくなります。今回、フリーアドレス化をきっかけに、ヘルメットや災害時持ち出しグッズの共有化と災害情報の共有化を行ったことで、社員の防災意識

が高まるという効果を得られました。

企業は新陳代謝で若い世代へと交代していきますが、事業所防災リーダーを中心に防災意識をしっかりと引き継ぎ、いざというときに備蓄などをいかに活用できるかが大切だということを周知していきたい。「防災」はこれからますます大切になってくる、新しい「企業価値」だと思っています。



階段下を利用した備蓄。倒壊などで取り出せなくなったときのことを想定して、別の場所にも備蓄保管用の倉庫を用意している。